

用語解説 避難行動要支援者：災害発生時等に自ら避難することが困難な者で、特に支援を要するもの。
避難支援等：避難行動要支援者の生命又は身体を災害から保護するために必要な措置。



避難行動要支援者のための避難支援等の個別計画はあるのか

答 現時点では策定できていない

議員 当市の地域防災計画は完成しているのか。また、防災計画には、それに伴う行動計画、行動マニュアルが必要だと考えるが、それはできているのか伺う。さらに、災害対策基本法で義務付けられている災害時避難行動要支援者名簿の作成等の個別計画を有しているのか伺う。

市長公室長

当市では、避難行動要支援者名簿は作成しているが、個別計画については現時点では策定できていない。現在策定中の地域防災計画や各種マニュアルの改正等に合わせ、具体的な個別計画の策定手順や避難支援の検討方法などを組み入れた避難行動要支援者の対応マニュアルについても作成を進めている。

議員

計画が進んでいるということなので一つは安心するが、これからは、今まであり得なかったことを想定しなければならぬ

時期に入っている。温暖化がここまで進み、台風がこれまで大きくなるような状況に至っては、今まで想定していたものでは対応できないということをも念頭に置き、行政が常に想定外を想定していかなければならない。行政に携わる人間は、特に人命を守るために一番に率先して行動しなければならぬという点を肝に銘じてほしい。この点についてはどう考えるか。

市長公室長

地域防災計画については、市職員、特に行政がまず何を行動するかという内容を記載した形になると考える。計画するだけで済ませずに、何度も訓練をして、職員が初動体験をした上で、自主防災組織や民生委員と連携する形でのマニュアル等の作成を進めている。

議員

防災計画も大切だけれども、人命が一番である。災害時に災害弱者となってしまう避難行動要支援者の人たちを守るための計画を一日も早く作ってほしい。



「無事ですタオル」の市内全戸配布を希望するが、実施する考えはあるか

答 前向きに考えたい

議員 最初に、私の町内での「無事ですタオル」の使い方を説明する。家具が転倒するおそれがあるといわれる震度5弱以上の揺れがあると、まず、自分や家族の身を守り、火の始末をし、玄関に「無事ですタオル」をかけた集会所に全員が集まる。その時、全員が「無事ですタオル」のあるなしを確認しながら集合場所に集まるので、もし、かかっていない家があったら全員で救助に向かう。自治区の中の班単位で救助する仕組みである。日本赤十字奉仕団三妻支部の役員会でも、一日も早く「無事ですタオル」で地震に対する防災に取り組みたいと話合った。「無事ですタオル」の市内全戸配布を実施する考えはあるか、防災先進都市をうたう市長の立場での決断をいただきたい。

市長公室長

タオルをかけていれば無事だ

ということが一目でわかる大変すばらしい安否確認の取組だと確信している。また、阪神・淡路大震災時には近所の住民によって救助された方々が約8割というデータも残っている。しかし、市としては、まずは自主防災組織の結成促進に努め、地域の防災力を高めていけるよう支援していきたいと考えている。

議員

防災組織が立ち上がるのを待つのではなく、既にある班という組織ごとに「無事ですタオル」の活動を広めていきたい。

市長公室長

一番大事なのは、「無事ですタオル」を全戸配布することではなく、地域のきずな、または防災意識の高揚であると考えています。まずは、地域のきずなを促進する手伝いを行政が積極的にしていくべきだと考える。

議員

「無事ですタオル」を手にするということで、地域のきずなを強め、防災意識を高めることができる。是非前向きに検討してほしい。